

月刊 介護保険

介護に携わる人の
応援マガジン

特集

次期介護保険制度改正の 議論は大詰めに

社会保障審議会介護保険部会

2013

12

vol.214



● 現地ルポ—自治体編

介護予防と雇用創出をモデル事業で一体化
大分県竹田市の取り組み

● 現地ルポ—事業者編

入所者の力を引き出し要介護度を改善する
品川区立八潮南特別養護老人ホーム（東京都品川区）

● レポート

地域包括ケアシステムの土台は人にあり
第14回介護保険推進全国サミットinなんと



街

へ出よう！

「トラベルヘルパーが教える外出の

コツ

」



NPO法人
日本トラベルヘルパー協会
理事長 篠塚 恭一

PROFILE しのづか・きょういち

株式会社SPIあ・える倶楽部代表取締役。
平成18年にNPO法人日本トラベルヘルパー
(外出支援専門員)協会を設立。

外出支援・介助システムを上手に使う

「新潟から東京へ母を連れ出したいのですが、お願いできますか？」。母親を介護する真由美さんから2度目の電話が入りました。「春に一度、相談したのですが、その時は不安で実現できませんでした。今度は父の同窓会があるので、それを口実に母を連れ出したいと思い連絡しています」。

母親は要介護度3。2年前に脳梗塞で倒れて半身に麻痺が残っています。一度はあきらめたはずの旅でしたが、ふさぎ込んでいる姿がたまらず、父を口実に東京見物を実現したいと娘の真由美さんが奮い立ちました。

真由美さんは、「あ・える倶楽部」を介助人材の派遣会社だと思っていました。だから、いざ土地勘もない東京へ行くとなれば、どこに泊まったらいいのか、駅からはどう行ったらいいのか、荷物もあるし、トイレも心配と、自分たちだけでは不安が募り、結局あきらめていました。

介護旅行にかぎらず、外出を実現するには、断片的なサービスでは利用者の課題は解決できません。自宅のベッドを出てから帰るまでのすべて、持ち物の準備から洋服選びまでトータルに相談できなければ事は足りず、そうした相談を気軽にできる場所がないのが現状です。「滞在先のホテルや移動手段まで教えてもらえるとは思いませんでした」。一瞬、真由美さんの声が明るくなりました。「もっと、具体的に考えると相談したいことが出てくると思うので、また、電話させてもらいます」。そう言って真由美さんは電話を切りました。

私たちは、普段どのような介護サービスを受けているかを理解したうえで、旅先でできることと必要な手配を説明していきます。すると、案外自分たち家族でもできることがあることに気づいてくれます。移動はリフト付きの介護タクシーでないとダメと思いついでいる家族も、いくつかのポイント、たとえば車いすから普通の座席へ移乗しても座位を保つことができるのか、その際、身体には痛みがないかなど、問題がないことがわかれば一般車両でも大丈夫なことに気づきます。

さらに、自宅から同行する娘さんのほか、途中で合流するお姉さんの存在もわかりました。するとその座席の手配やホテルの仕様、全行程をマンパワーの有無に合わせてアドバイスすることもできます。

このケースでは、症状は安定しているので移乗がうまくいけば、どうやら介助者はいなくてもいけそうだという結論になりました。

トラベルヘルパーはお出かけ相談から交通手段の選択、宿泊先の選定などさまざまなコーディネートができますし、もちろん外出時の介護スキルもあります。それでも、日常生活を取り戻そうと自立をめざす家族なら、環境を整えて介助をしない介護旅行も行っています。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まりました。これを機に、この先半世紀は超高齢者を標準にして、超高齢社会の未来空間や質の高い多様なサービスモデルを、先進国として世界に示したいものです。真由美さんの母親は孫と一緒に東京オリンピック・パラリンピックを観に来たいと、今から楽しみにしています。